

公共施設再配置（更新素案）についての地区説明会における質問及び回答（桜が丘中学校区・R6.6.24開催）

No.	大項目	項目	質問内容	回答要旨	備考
1	再配置の方向性	小中学校の再編	学校再編計画の計画及び進捗状況を教えてください。	学校再編計画はを市ホームページで公開しています。30年の長期計画、10年ごと3期に分けて進めていきます。桜が丘中学校区につきましては第2期の令和15～24年の間に検討に着手することになっています。昨年度より第1期の原野谷中学校で検討を開始し、城東中学校区、東中学校区の順に検討を進めることになっています。	
2	再配置の方向性	縮充	複合施設化というが、小中学校と地域民との動線を分ける（時間・場所を分ける）と交流が生まれるのか？	基本的には不審者の侵入を防止するために小中学生と一般の方の動線は分けたいと考えています。ただ、同じ学校内で例えばランチルームと一緒に食事を取ったり、共用施設として、子供たちと地域の方たちが交流するような場所も設けていきたい、分けることによって遮断するだけでなく、共用の場を設けることで交流を作っていきたいと考えています。	
3	再配置の方向性	行財政改革	公共施設の再配置は、掛川市の行財政改革の大きな柱の一つであると思うが、その他で進めている行財政改革は？	<p>行財政改革の一環で施設総量を減らしていくという側面と同時に、人口が減っていく中のまちづくりをどうしていくか考えていこうという側面もあります。30年前は人口増加の中で、掛川市は公共施設の整備が遅れていたため、人口が増えていく前提でのまちづくりを描いてやってきました。人口・需要・利用者が減る中で残った公共施設をどうするか、そもそも地域が衰退していくことをどう捉えるかという新しい視点が必要だと思います。その中に公共施設再配置を位置付けています。お金の面が強調されそれも確かにありますが、人口減の時代に新しい地域のあり方を考えていく1つの材料としてしっかり検討していきたいという位置付けとなっています。行政改革というと人を減らしたり事業を廃止したりという側面がありましたが、一般的はきっちりと事業の成果を把握し、政策の実現に必要な事業に重点配分するPDCAサイクルをそれぞれの部署でしっかり行っていくことで、経費の使い道をより効率的にしていくことを一生懸命やっています。</p> <p>市民に分かりやすいという経費が減ることも1つの判断材料になるかもしれませんが、PDCAを回して政策の実施計画を高めるといことの1つの判断材料とすると、毎年市民意識調査というのをやっています。この政策のこの分野について満足度調査をし、満足度が全然足りない、例えば子育て分野は全然だめだという判断が多ければ、どうしたら子育て政策が充実したまちと言ってもらえるかということで作戦を練り直すというようなことをやっています。例えば農業であれば生産額をいくら以上に保つてであるとか農家の減少率を下げるというような定量的な数値と、満足度の調査によって市民の意識を把握して、どのような政策を実現したら良いかということで進めています。</p>	

No.	大項目	項目	質問内容	回答要旨	備考
4	再配置の方向性	将来の見通し	公共施設の複合化については理解できるが、全体としての地域の状況（30年後、40年後のビジョン）を市の行政としてはどのように考えているのかを具体的に説明頂きたい。そういった位置付けがないとなかなか市民としては納得できないのではないかと。	地域拠点としては小中学校が再編を計画しているということで、地域拠点としてはそうした場に賑わいの場所を作りたいと考えています。当地域では和田岡地区・桜木地区とそれぞれ拠点もありますが、今後は複合化も含めた施設の検討というところで新たなコミュニティを生み出していくことも必要ではないかと考えています。人口減少もありますが、地域の拠点として小中学校を拠点にしたかどうかということを検討しています。	
5	再配置の方向性	行財政改革	市よりの提案はコンパクトシティの様な位置づけとして理解して良いのか。	市では立地適正化計画、都市計画の中で「コンパクトシティ+ネットワーク」を定義しています。コンパクトシティを目指しながら広い地域にある拠点を公共交通で結ぶ、という考え方をしており、施設の再配置においてもそうした都市計画を踏まえながら、配置や統廃合・再配置を検討していきたいと考えています。	
6	再配置の方向性	個別施設の方向性	吉岡団地はⅡ期統合、高齢者いきいきセンターはⅡ期複合化、和田岡センターへ和田岡地区学童保育所がⅡ期複合統合化とあるが、現段階での案はあるのか。	吉岡団地と和田団地は同時期に耐用年数を迎え、部屋数も市営住宅の部屋数で検討していますので、Ⅱ期統合と考えています。高齢者いきいきセンターは木造ですが、現段階では支障のない状態で使っていただいております。地域の学習センター等々の複合化も含めて耐用年数が到来するので、その辺りも検討しています。和田岡地区センター、学童保育所は学校再編時に複合化するかどうか含め検討している段階です。	
7	再配置の方向性	交通手段	建物の位置について掛川市では交通手段の考えは？ (高齢者が多くなるので)	公共交通は非常に重要かつ難しい問題で、公共施設再配置のデメリットとして施設が遠くなるということが挙げられます。高齢化が進む中で、まず小中学校は統合して距離が遠くなってしまいう場合に、基準の中になりますがスクールバスの対応のようなことを考えています。地域拠点化については施設を地域ごとに集約することである程度一定需要を1箇所で確保し、公共交通の需要増に繋がらないかと考えています。また公共交通自体の話としては、公共交通へのアクセスに限らず、駅や病院等へどうやってアクセスしていくかということになると思います。公共交通全体で既存のバスやデマンドタクシー、地域の支援者に留まらず、AIや自動運転のような新技術の活用を含め新しい公共交通のあり方を作れないかの検討を開始したところであり、地域の皆さまと協議しながら進めていきたいと考えています。	

No.	大項目	項目	質問内容	回答要旨	備考
8	再配置の方向性	25%削減の目標設定	資料1のP13にある保有総量の適正化で、R50年度の延床面積25%削減の根拠をもう少し説明願いたい。	25%削減の目標は、将来更新費用74億円に対し用意可能な財源が40億円であるという試算からスタートしており、差額の30億円をどう埋めていくかという時に、試算の中で各施設の更新費用、例えば60年持つ施設ですと半分の30年が経過した際に大規模改修を行わないといけないというような費用も盛り込んでいきますと、今後50年で1,928億円掛かる試算であり、これを年単位に換算すると74億円になります。今用意できる財源40億円というのは、現在の建設投資額や過去の推移から今後10年間ほどの財政状況の推移を見越して算出しています。30億円の差をどうするかと考えた時、1,928億円を減らそうとすると、面積換算した場合にどれくらい減らす必要があるかということを試算した結果が25%になります。詳細は市ホームページで公開している「公共施設等総合管理計画」に計算結果がありますので、御確認いただければと思います。 (総合管理計画P43・P44)	
9	再配置の方向性	縮充	他県の事例を具体的にどの時期にどの場所で取り入れ、もしくは更に良くなる様考えているのか？	御紹介の事例が掛川市にどう結びつくのかという御質問と思いますが、例えば32枚目のスライドに学校再編に合わせた地域拠点化というものが出てきます。このような形になるかは別として、こうした選択肢を持ちながら、新たな学校を造る際に学習センター等々をどうしていくべきか皆さまと一緒に考えていきたいと思っています。老朽化した建物をそのまま規模で建て替える力は残念ながら掛川市では難しいのが現状であり、そのため25%削減ということを申し上げていますが、そうした状況下で「まだ使えるからそのまま使う」か「この機に新しい施設にするのか」等、色々な選択肢の中で考えていきたいと思っており、時期は第2期で検討開始することを考えています。	
10	再配置の方向性	縮充	複合化により施設管理が難しくならないか？	導線を分けるようなセキュリティ、施設の管理も含めて進めていきたいと考えています。	
11	再配置の方向性	縮充	統合になった場合は、新しい名前になるのか？	学校再編の中で複合化になれば、施設の名前についても御提案いただいて検討したいと思っています。	
12	再配置の方向性	縮充	施設を集約した場合、人口が少ないところは公民館等、どんどん施設が無くなっていくのではないか。	現時点では、中学校区ごとに学習センターや小中学校・学童保育所は必要と考えています。地域活動拠点である地域生涯学習センター等は、学校再編の中で合わせて複合化ということを一つの方向性として考えています。例えば桜木や和田岡、それぞれの地域で同じ場所を使うことも一つの選択肢と思っており、当然遠くなる部分ではありますが、複数地区が共同利用することで学校の特別教室等も使いながら、今より更に充実した施設になるのではないかと考えております。ただあくまで方向性であり、実際の時期に個々の統合・複合化を考える際に地域の皆さまとその時の状況も踏まえ協議・検討していきたいと考えております。	